

中部大学との交流

宮浦 富保

2006年5月23日、中部大学の寺井久慈教授、南基泰助教授、上野薫講師の3人が、龍谷大学瀬田学舎を訪問されました。龍谷の森を見学し、里山の保全や、教育への利用、研究の進め方などについて意見を交わしました。

中部大学は愛知県春日井市にメイン・キャンパスをもっています。岐阜県恵那市にも約40haのキャンパス（研修センター）をもっており、ここには、かつて里山として利用されていた森林があります。中部大学では、この恵那キャンパスの森林を研究や教育などに利用し始めています。また、中部大学の教員が中心メンバーとなって、土岐川・庄内川流域で「森の健康診断」という森林の保全活動を展開しています（<http://www.japan-net.ne.jp/~nagayama/wood/index.html>）。

龍谷大学、京都女子大学、金沢大学、九州大学の4大学ではこれまで、里山をもつ大学として、研究や教育の面で交流・協力を行ってきました。中部大学が加わることで、新たに5大学の里山交流がスタートすることになりました。

中部大学では9月から11月にかけて市民向けの講座として、5大学間里山交流セミナー「里山共生考現学」—里山を環る未来—を開催しました。里山ORCのスタッフも講師として参加し、以下のようなテーマで講演しました。

10月6日（金） 中村浩二

石川県の里山の現状と課題：金沢大学「角間の里山自然学校」の取り組み

10月13日（金） 高桑進

「京女の森」における生命環境教育の取り組み

10月20日（金） 宮浦富保

里山を研究する—龍谷の森での取り組み—

10月27日(金) 丸山徳次

里山の環境倫理—里山学の提唱—